

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号	41
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇希望する進路が達成できる高校になっているか（学習・進路指導）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 先生は熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容について信頼ができるとの評価を得ている。 家庭学習時間の減少や生徒の43%、保護者の37%が学習塾の必要性を感じていることを踏まえた指導法について考える必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇希望する進路が達成できるよう学力の向上を目指し、授業の改善・充実を図り、小テスト・自宅学習・考査・模擬試験への取組を充実させる。 ◇はつらつ講座・地域課題解決型キャリア教育などキャリア教育の充実を通して主体的に学ぶ力を涵養する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各学年部の取組を中心に、進路指導部が協力して学力の向上を図ると共に、特別活動部・進路指導部が各分掌の協力のもとキャリア教育の充実を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業研究の充実、定期考査や模擬試験等の結果の分析と学力向上に繋がるアクティブラーニングの研究・実践、入試問題研究会等への積極的な参加。 (2) 「はつらつ講座」「地域課題解決型キャリア教育」等キャリア教育関係行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業評価、大学合格者数、対外模擬試験の全国レベルでの達成度。 (2) 教員の各種研究会での発表や参加者数。 (3) キャリア教育関係行事の実施回数・参加者数。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 授業評価や各種考査の結果などを基にした授業のさらなる充実。 キャリア教育を推進するための外部活力との積極的連携。 各種研究会への教員の積極的な参加及び発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の学力は向上したか。 ②生徒の進路希望を高めることができたか。 ③職員の取り組む姿勢に熱意が感じられたか。 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教師はアクティブラーニングを取り入れた授業改善を進め、生徒が主体的に授業に関われるように努めた。 ○生徒は各キャリア支援プログラムに積極的に参加し、視野を広めた。 ○地域課題解決型キャリア教育、エンリッチ活動、高校生議会等において、生徒は地域の大人とのディスカッションを通して視野を広め考えを深めることができた。 ●学力向上に繋がるように授業改善に取り組んでいるが、大学入試にその成果が現れていないのが現状である。 ●生徒が地域で活動していく事は大切であるが、授業や家庭での学習、部活動等とのバランスを考慮し、過剰負担にならないよう計画的に取り組む必要がある。 	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングに対する研究も進めながら、生徒の進路目標実現のためのさらなる授業改善を目指す必要がある。 地域課題解決型キャリア教育は、市議会や市役所、NPOなどの強力な支援を得て行っている。来年度は、これらの活動とフラッグシップハイスクール（ふるさと教育）の活動を有機的に結びつけ、外部活力の協力のもと、教員・生徒の負担も考慮しながら、生徒の成果が上がるよう、企画・実施していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月1日

【意見・要望・評価等】

- ・入試改革に対して先生方が研修を通して情報共有を行い、保護者に対しても情報提供を行うなど熱心に取り組んでもらっている。今後も引き続き研究・研修を続けてほしい。
- ・進学指導に関して、新しい試みが続いており、手厚い指導が行われていることが感じられる。
- ・可児高校には宅週記録という生徒と教員をつなぐ大切なツールがある。このツールを有効に用いて自宅学習時間の改善や教育相談等に活用してほしい。
- ・先生に対する生徒の信頼感が高い。先生方から肯定的評価を生徒に発信して自己効力感を高める必要があるのではないか。
- ・今の子どもたちは自宅では誘惑も多く学習できないため、自習できる場所を求めて塾に通っているため通塾率が高いように思う。主体的な学習姿勢を育てることが必要である。
- ・ボランティア活動の充実が必要であると考えるが、地域課題解決型キャリア教育とも関連させて、こうした取り組みを実施できるとよい。

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号	41
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇礼儀正しい高校生を育成する高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> マナー・社会規範、服装・頭髪・に関する指導に対する肯定的評価が昨年の79%から95%に上昇し、高い割合を示している。 いじめや差別に対する対応について、生徒の肯定的評価が83%と高い数値ではあるが、否定的評価が3%いることも見逃せない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇遅刻者の一層の減少。 ◇情報モラルに関わる問題の減少。 ◇端正な身だしなみ。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者に対する指導を、教育相談とも連携して行う。 1年生は、早期に集中的に情報モラル指導を行う。 身だしなみ指導では職員全員でのチェックカード方式をとる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻者指導と呼出し指導	(1) 遅刻者延べ数 年間600回以下	
(2) 身だしなみチェックカードと個別指導	(2) 呼び出し指導 年間10件以下	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎朝の全職員での遅刻指導	①遅刻者が前年より減少したか。	Ⓐ B C D
・チェックカードによる個別指導	②制服の着こなしの適正化。	Ⓐ B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめがないわけではないが、重大事案に発展するケースは皆無であった。 ○身だしなみでは、指導を受ける生徒がほとんどいなかった。 ○教育相談を要する生徒が継続的に遅刻をしているが、大半の生徒について遅刻について個人指導を行ったのは2名のみであった。 ●スマホについては、許可願いを提出させ、「使って学ばせる」指導をしているが、個人情報の書き込みが何度か起こったので、今後も一層の指導と注意が必要である。 	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案 教育相談を必要とする生徒が増加し、継続的な遅刻や欠席が多い。今後更に、生徒理解に努め、早めの対応を行うことが必要であり、研修等を通じて職員の意識改革を行っていく必要もある。情報モラルについても継続的な指導が不可欠である。また、自ら進んで挨拶ができない生徒が多く、本来のコミュニケーションを始めるきっかけとしての挨拶を促進していきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月1日

【意見・要望・評価等】

- ・世間はいじめに敏感になっている。いじめが起こらない予防的指導が大切だが、事後のケアも気を配ってもらいたい。定期的調査等により問題を最小限に止めるなど早期対応ができています。
- ・不登校等悩みを抱える生徒に対しては、個別の対応と臨機応変の指導が必要である。今後も、きめ細かい指導をお願いしたい。

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号

41

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇交通安全教育に重点を置く高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・交通安全への取組に対する肯定的評価は、生徒96%、保護者90%と高い評価である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自転車事故の減少 ・交通安全啓発活動の充実・通学路整備	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員の3班方式による登校指導と保護者の協力による登校指導 ・可児警察署や自動車学校との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) P T Aの方々と共同開催の登校指導 (2) 自転車点検、交通講話、集会指導	(1) 交通事故件数の減少 (2) 自転車の交通マナー違反者の減少	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・早朝に多くの職員・保護者の方の参加により登校指導を行い、挨拶、身だしなみを含めた指導を行った。 ・交通マナー徹底のため、マナー違反者に対する個別指導を導入している。	①交通事故件数が減少したか。 ②登下校時の交通マナーが向上したか(苦情や違反者は減ったか)。	A (B) C D A (B) C D
11 成果 ・課題	○自転車マナー違反者については可児高ルール(坂道乗車違反等)では20件を超えたが、交通法規違反は少ない。 ○可児警察署及び可児自動車学校と連携して、1年生を対象に早い時期に交通安全教室を可児自動車学校で開催し、交通安全意識を実践的に高めることができた。 ●交通事故件数は昨年続き2, 3年生が増加しており、昨年とほぼ同数である。1年生の4月、5月の事故が多く、対自動車が多かった。 ●苦情も昨年と同様にあった。機会ある毎にマナー意識向上を訴えているが、学校から離れた場所での交通マナーの改善に努める必要がある。保護者の車での送迎のマナー・規則違反にも苦情がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	・交差点での一時停止や自動車の運転者とのアイコンタクトを徹底する。また、自転車の並列での事故も多いため、並列進行やスピードコントロールの指導も強化する。自転車は軽車両であり、被害者にも加害者にもなる意識を持つように意識づけを行い、更に安全運転、事故防止を心がけさせる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月1日

【意見・要望・評価等】

- ・学校の交通安全指導については、事故が起きないようにきめ細かな取り組みが行われており、大変な努力と負担が伴うことで感謝している。今後も引き続きお願いしたい。
- ・運転者とのアイコンタクト、止まってくれた運転者に対する会釈等指導しているということだが、地域のドライバーの意識も変えていく必要がある。